

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

平成30年2月1日
白馬村教育委員会

平成29年度に実施された「全国学力・学習状況調査」について、今後の教育活動に役立てるため本村の結果を分析しました。その概要をお知らせします。

1 調査の概要

(1) 調査対象

- ① 小学校第6学年（調査実施人数 70人）
- ② 中学校第3学年（調査実施人数 72人）

(2) 調査内容

① 教科に関する調査

- ・主として「知識」に関する問題（国語A、算数A・数学A）

○身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

- ・主として「活用」に関する問題（国語B、算数B・数学B）

○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

② 質問紙調査

- ・児童生徒に関する調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

2 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果の概要

【小学校（6学年）】

- ① 国語Aは全国平均正答率をやや下回る結果でした。
- ② 国語Bは全国平均正答率をやや下回る結果でした。
- ③ 算数Aは全国平均正答率をやや下回る結果でした。
- ④ 算数Bは全国平均正答率と同程度でした。

【中学校（3学年）】

- ① 国語Aは全国平均正答率と同程度でした。
- ② 国語Bは全国平均正答率と同程度でした。
- ③ 数学Aは全国平均正答率と同程度でした。
- ④ 数学Bは全国平均正答率と同程度でした。

(2) 各教科の調査結果の概要

【小学校（6学年）】

① 国語

主として知識を見る「国語A」の領域別結果では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が全国平均と同程度で、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国平均をやや下回り、「書くこと」が全国平均を下回る結果でした。また、主として活用力を見る「国語B」では、「話すこと・聞くこと」が全国平均と同程度で、「読むこと」が全国平均をやや下回り、「書くこと」が全国平均を下回る結果でした。今後、「書くこと」「読むこと」の力を伸ばすために、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる活動や、新聞や手紙など様々な形態の文を書く学習を効果的に取り入れていくことが大切になります。また、言語についての知識という面で、漢字の読み書きのいっそうの習熟も必要だと考えられます。

② 算数

主として知識を見る「算数A」の領域別結果では、「図形」「数量関係」が全国平均と同程度で、「数と計算」「量と測定」が全国平均を下回る結果でした。また、主として活用力を見る「算数B」では、「数と計算」「量と測定」「数量関係」が全国平均と同程度で、「図形」が全国平均を下回る結果でした。今後、数量や図形についての知識・理解・技能の確かな定着を図る指導をさらに充実させ、様々な形の問題に取り組むとともに、活用力の向上に向け、与えられた情報から数量の関係を捉え、自分の判断の理由を文章に書いたり、友だちの考えと比べたりする学習の充実が求められます。

【中学校（3学年）】

① 国語

主として知識を見る「国語A」の領域別結果では、「書くこと」が全国平均をやや上回り、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国平均と同程度で、「話すこと・聞くこと」が全国平均をやや下回る結果でした。今後、「話すこと・聞くこと」に関して、協働の学びを実践していき、互いの発言を聞き合い、検討し合っ自分の考えが広がるような活動を取り入れていくことが求められます。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関わって、書写の時間などで楷書や行書を書くだけでなく、その特色も理解させる学習を深めていくことが求められます。

主として活用力を見る「国語B」領域別結果では、「話すこと・聞くこと」が全国平均をやや上回り、「書くこと」「読むこと」が全国平均と同程度で、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国平均を下回る結果でした。今後、表現の仕方について学習を深め、さらに、自分の考えや感じたことを書くような活動や、見通しを持って必要な情報を集める活動を増やしていくことが求められます。

② 数学

主として知識を見る「数学A」の領域別結果では、「数と式」「図形」「関数」が全国平均と同程度で、「資料の活用」が全国平均をやや下回る結果でした。今後、「資料の活用」については、資料を整理した表から最頻値を読み取ることや、測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解できるようにしていくことが求められます。

主として活用力を見る「数学B」の領域別結果では、「資料の活用」が全国平均を上回り、「関数」が全国平均と同程度で、「数と式」「図形」が全国平均をやや下回る結果でし

た。今後、「数と式」に関して、与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現できるような活動を増やしていくことが求められます。さらに、「図形」に関して、さまざまな図形の特性の学習を行うとともに、数学的な表現を用いて説明するような場面を多く設定していくことが求められます。

(3) 児童生徒質問調査の結果（特徴的な事項について）

【小学校（6学年）】

① 生活習慣について

「朝食を毎日食べている」や、「毎日同じくらいの時刻に寝起きする」児童の割合は全国平均を上回っており、比較的規則正しい生活をしていることが伺えます。

② ゲームやメール等の使用時間について

「テレビやビデオ等を3時間以上視聴している」児童の割合は全国平均を下回っています。また、「ゲームを2時間以上している」児童の割合も全国平均を下回っており、昨年度よりもゲームに時間を取られる児童の割合は減少しています。また、「通話やメール、インターネットを2時間以上している」児童の割合も全国と比べると少ない現状です。本村児童のゲーム及び通話やメール、インターネット使用の時間は、増加の傾向の見えた昨年度に比べると少なくなっている状況です。しかし、確実に子どもたちにとって身近になってきているメールやインターネットの安全な利用に向けての取組は、今後もさらに大切にしていく必要があります。

③ 家庭学習について

「学校の授業時間以外で2時間以上学習をしている」児童の割合は全国平均を下回っています。また、「家で学校の宿題をしている」児童の割合は全国平均と同程度ですが、「家で学校の授業の予習をしている」及び「家で学校の授業の復習をしている」児童の割合は全国平均を下回っています。本村児童の家庭学習は、宿題をきちんと行っているものの、復習や予習をする時間は全国と比べると少ない状況にあり、このことが全国平均より学習時間が少ない原因の一つと言えそうです。今後も、学校・家庭が協力し、家庭学習の充実を図る取組を継続して進めていくことが望まれます。

④ 読書について

平日「学校の授業時間以外で1時間以上読書をしている」児童の割合は、全国平均を下回り、「授業以外に図書館に週1回以上行く」児童の割合は全国平均を上回っています。また、「読書は好き」と回答している児童も全国平均を上回っています。

本村児童は本に触れる機会が比較的多いといえます。

【中学校（3学年）】

① 生活習慣について

「同じ時刻に寝ているか・起きているか」という問いに対して、多くの生徒は決まった時刻に就寝・起床ができているが、「あまり決まっていない」生徒の割合が全国平均をやや上回っています。しかし、朝食に関しては、9割近くの生徒が毎日食べ、全国平均を上回っており、多くの生徒が規則正しい生活習慣が身につけているといえます。

② テレビ視聴やゲーム・メール等の使用時間について

「テレビ等の視聴時間」に関しては、3時間以上見ている生徒の割合が、全国平均をやや上回っていますが、逆に1時間未満の生徒の割合も全国平均を上回っています。「ゲーム等を行う時間」に関しては、3時間以上行う生徒の割合が全国平均と同程度であり、1時間未満の生徒の割合がやや上回っています。「メール・インターネットを行う時間」に関しては、3時間以上行う生徒の割合は、全国平均を下回っています。

いずれの分野でも、長時間使用している生徒と、自主的に減らそうとしている生徒の二極化が伺えます。また、全国平均と近似値ではありますが、依然としてテレビの長時間視聴やゲームおよびメール・インターネットの長時間使用が危惧されます。基本的な生活習慣の乱れやゲーム・ネット依存に陥らないためにも、インターネットの安全な利用に向けての取組を、今後さらに進めていく必要があります。

③ 家庭学習について

「平日に授業時間以外に学習している時間」は、2時間以上学習している生徒の割合が全国平均を下回り、30分以上1時間未満の生徒が多いですが、昨年と比べると学習時間は増えています。「休日の学習時間」は、4時間以上の生徒の割合は、全国平均と同程度ですが、3時間以上もしくは2時間以上の生徒の割合は全国平均を下回っています。1～2時間程度の生徒が多い傾向が見られます。

4月の調査であり、学習意識が低かったことも考えられますが、平日・休日ともに、さらなる家庭学習の充実と、予習や復習、さらに自ら計画を立てて行う学習の充実が望まれます。

④ 地域との繋がりについて

「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」生徒の割合は全国平均を上回っています。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域や社会をよくするために考えたことがある」も、全国平均を上回っており、自らの地域を大切に考えている生徒が多いといえます。

中学校では、地域に関わる様々な学習を展開し、村のイベント等への生徒のボランティア参加を積極的に進めています。地域へ積極的に関わっていることが、生徒の地域への関心の高さを育んでいると思われれます。

3 学力向上にむけた今後の取組

【学校の取組】

① 授業改善

- ・ねらい、めりはり、見とどけ を意識した日々の授業
- ・互いに聞き合い、伝え合う活動を基盤として、共に課題を解決し、自分の考えを深めることができる「主体的・対話的で深い学び」の実現

② 授業におけるICT機器の活用

- ・授業における基礎的な知識や技能の習得の場面と、習得したことを基に活用する場面でのICT機器の活用

③ 学力の定着

- ・チームティーチング、少人数学習の実施
- ・ドリル学習の内容の充実、家庭学習の充実

- ・外国語活動、および外国語学習の先行実施とそれに伴う体制の整備（小学校）
- ・放課後学習の充実（中学校）
- ・家庭学習の質の向上と充実

【村の取組】

- ① 各校の実情に応じた村費による学習支援員及び特別支援教育支援員の配置
- ② 小学校の外国語、外国語活動の先行実施に向けて、ALTの効果的な配置
- ③ 信州型コミュニティースクール（地域の教育力を生かした学校教育）の一層の充実
- ④ 電子黒板、タブレット等のICT機器の充実と活用推進
- ⑤ 白馬村青少年育成会議・PTA連合会・教育委員会が一体となって進めている、「インターネットの安全・安心な利用」の取組の充実

【家庭の取組】

- ① 規則正しい生活習慣づくり
- ② 家庭学習や読書の時間の確保
- ③ インターネットの安全な利用に関する約束づくり